

Data

霧多布湿原は釧路湿原、サロベツ原野に次ぐ日本第3位の面積を誇り、その中央部803haは天然記念物。1993年にはラムサール条約登録湿地に指定された。

面積：3168ha

花：ハナショウブ、ワタスゲ、ヒオウギアヤメの他、エゾカンソウの群生地として有名

鳥：約300種の鳥が見られる（湿原・周辺の森林・海岸地帯）。特にタンチョウヅルの営巣地として名高い。



●お問合せ先

浜中町商工観光課 Tel.0153-62-2111

霧多布湿原トラスト Tel.0153-62-4600

浜中町霧多布湿原センター

Tel.0153-65-2779

[各種エコツアーのお問合せ]

霧多布湿原センター友の会

Tel.0153-65-2779

北・西・南の3方を丘陵に囲まれ、東は太平洋に接する道東の浜中町の霧多布湿原は面積3168ヘクタール。釧路湿原、道北のサロベツ原野に次いで国内3番目の広さ。海拔3メートル以下の低湿地帯で大部分はミズゴケの泥炭地。その厚さは0.7〜2.6メートルもある。

湿原の中央部の803ヘクタールは「海拔5メートル以下の低地に泥炭地があるのは貴重」との理由から、1922（大正11）年に「霧多布湿原泥炭形成植物群落」として天然記念物に指定された。

湿原には国の特別天然記念物のタンチョウや白鳥、アオサギ、コクガンなど四季を通して約100種類の野鳥が見られる。83年に「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地」として、2504ヘクタールがラムサール条約に登録された。

湿原は、約5000年前まで海底だったといわれる。その海水が次第に引いて陸地となり、低い

部分に水がたまって沼や川ができた。沼地に生えた植物は、枯れても寒冷的な気候のため腐りきらないまま積み重なり、泥炭層を作って堆積（たいせき）を続け、2000〜3000年かけて現在の状態になったという。

湿原の魅力は鳥やシカ、キツネなどの動物のほか、美しさ、華やかさを競って咲き乱れる花。「国内最大級の原生花園」といわれ、100種類を超える草花が見られる。

4月から6月は、雪が解けるのを待つて咲くフクジュソウやキバナノアマナ、湿原を白一色に染めるワタスゲ。霧に包まれる日が多い7月初旬はエゾカンソウの黄色に包まれる。そして濃い紫のノハナショウブ、コケモモ、センダイハギ。青空の広がる秋はサラシノショウマ、カラフトブシなど。高山植物が大部分を占め、訪れる人の心をつかんで離さない。

環境教育に生かす計画だ。

まちづくりと遺産

産業と観光に大切な資源

「浜中町の基幹産業は漁業と酪農で、海や草地进行する湿原は産業振興に大切な資源。保全と自然環境整備の面からも、調査・研究は重要」。同町の長谷川徳幸助役は、町発展に湿原は切り離せないと強調する。

同町は94年度から「霧多布湿原学術研究助成」制度を設け、120万円（02年度）の予算を計上。湿原の動植物、自然現象などの調査、研究に訪れる個人や研究団体に20万〜30万円の助成を行っている。

同町には、湿原と並ぶ観光名所の霧多布岬と合わせて年間約40万人の観光客がやって来る。北海道遺産に選定されたのを受け、庁内に観光振興を目的とした「エコツーリズムに関する政策企画会議」を創立した。湿原での自然体験、修学旅行招致など具体的な売り込み策を検討し、入り込みの大幅増を目指している。

また、町内14小学校と5中学校でも、総合学習のなかで、自然環境の学習や体験を進める。